

## I-C-13

## 大柴胡湯の血清脂質代謝および脳循環に対する効果 — エラスターゼとの比較 —

奈良県立医科大学 第1内科

○山野 繁, 澤井冬樹, 土肥和紘

【目的】血清脂質代謝および脳循環に対する大柴胡湯の効果をエラスターゼと比較した。

【方法】対象は、総コレステロール220mg/dl以上あるいはトリグリセリド150mg/dl以上の高脂血症患者65例である。その性別は、男性12例、女性47例、年齢は44～74（平均年齢63歳）であった。対象を、封筒法により、大柴胡湯治療群（EK-8群）27例（平均63歳）とエラスターゼ治療群（ELA群）38例（平均63歳）に分けた。6g/日の大柴胡湯、あるいは5400ELU/日のエラスターゼを、それぞれ12カ月間経口投与した。血清脂質代謝の指標には、治療前、治療6および12カ月後に測定した総コレステロール（TC、酵素法）、HDLコレステロール（HDL-C、沈降法）、トリグリセリド（TG、酵素法）、βリポ蛋白（βLP、免疫比濁法）、リン脂質（PL、酵素法）、遊離脂肪酸（FFA、酵素法）および動脈硬化指数（AI）を用いた。また、各指標の変化率（ $\Delta$ TC、 $\Delta$ HDL-C、 $\Delta$ TG、 $\Delta$ βLP、 $\Delta$ PL、 $\Delta$ FFA、 $\Delta$ AI）を求めた。脳循環の指標には、林電気製QFM-1000による右総頸動脈血流量（BF）、血流速度（BV）および循環抵抗（Z）を用いた。【結果】治療前の血清脂質代謝および脳循環の指標は、EK-8群とELA群の両群間に差を示さなかった。PLおよびFFAは、治療前後で差を示さなかった。EK-8群では、TC、βLPおよびAIは治療前に比して治療後6カ月および12カ月にそれぞれ有意に減少し、TGは治療後6カ月に有意に減少した。HDL-Cは、治療後12カ月に有意に増加した。一方、ELA群では、治療後6カ月および12カ月にそれぞれ有意に減少し、βLPは治療後6カ月、AIは治療後12カ月に有意に減少したが、TCおよびHDL-Cは治療前後で差を示さなかった。また、EK-8群の $\Delta$ TC（%）は、治療後12カ月が、 $11 \pm 13$ であり、ELA群の $5 \pm 13$ に比して有意に高値を示した。また、EK-8群の $\Delta$ AI（%）は、治療後6カ月が、 $15 \pm 19$ 、12カ月が $21 \pm 23$ であり、ELA群の $4 \pm 24$ と $6 \pm 32$ に比してそれぞれ有意に高値を示した。 $\Delta$ TC、 $\Delta$ βLPおよび $\Delta$ HDL-Cは、両群間に差を示さなかった。脳循環の指標は、EK-8群およびELA群ともに、治療前後で有意の変動を示さなかった。【結論】大柴胡湯およびエラスターゼは、脳循環に悪影響を及ぼすことなく、高脂血症患者の血清脂質代謝を改善させた。また、大柴胡湯の血清脂質代謝に対する作用は、エラスターゼに比して大であると考えられた。